

平成 28 年度 指定管理者年度総合評価表
(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月実施分)

作成日	平成 29 年 6 月 6 日
-----	-----------------

■指定管理者概要

施設名	八戸市水防センター（八戸市新井田川水防センター、八戸市馬淵川水防センター）	
所在地	新井田：八戸市大字田向字向河原 32－3 馬淵：八戸市大字尻内町字上川原 54－1	
施設概要	《設置目的》 ・水害その他の大規模災害時における防災対策の拠点とするとともに、市民の防災意識の高揚を図る。 《構造》 ・新井田：鉄筋コンクリート 2 階建て ・馬淵：木造（一部鉄骨）平屋建て	
指定管理者	名称	八戸地域広域市町村圏事務組合
	代表者	管理者 小林 眞
	所在地	八戸市内丸一丁目 1－1
指定期間	平成 26 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	
指定管理者の業務	(1)本施設の使用の許可に関する業務 (2)本施設の施設、設備等の維持管理に関する業務 (3)本施設の管理業務に付随して必要となる附帯業務 (4)その他必要と認める業務	
市所管課 (問合せ先)	建設部 港湾河川課 管理グループ	
	電話	0178-43-9386（直通）
	E-mail	kowan@city.hachinohe.aomori.jp

■指定管理者による自己評価

評価	両施設ともに、水害等の災害時に同倉庫内に備蓄してある資材を利用するなど、防災拠点としての役割を果たしていた。また、平常時のコミュニティスペースとしても安定した運営を維持しており、苦情・意見もなかった。
今後の目標	当施設の設置目的である、水防活動の拠点・防災教育の場としての機能を維持しながら、平常時のコミュニティスペースとしての役割も同時に果たしていきたい。

■市（所管課）の総合評価

評価	建物の管理、及び市民への対応について苦情は寄せられておらず、適正な管理がなされていた。また、利用人数・利用回数・使用料収入はともに安定していた。 よって、管理に対する評価は「良い」と判断できる。
指摘事項	特になし

■管理運営状況に係る個別評価

1 管理状況		
指標	評価	評価に対する説明
開館時間、休館日の運用	○	施行規則に定める開館時間や休館日を遵守していた。
法令の遵守	○	関係法令を遵守していると認められた。
適正な人員配置	○	人員及び資格者が適切に配置されていた。
従事者の労働環境確保	○	最低賃金等の労働関係法令が遵守されていた。
従事者の教育・研修	○	年度始めに研修を行うほか、必要に応じて随時教育・指導を行っていた。
緊急事態への対応	○	事故・災害等の緊急事態に対する対応（準備）ができていた。
文書の管理保存	○	取扱いは指定管理者である八戸地域広域市町村圏事務組合の規程に準じており、作成・受領した文書が適切に管理されていた。
報告書等の提出	○	事業計画、月例報告書、事業報告書、その他報告書が適切に提出されていた。
使用料の徴収事務 ※徴収委託をしている場合	○	適切に行われていた。
口座管理、経理の区分	○	指定管理者の収支は専用口座で管理し、経理区分が整理されていた。
通帳、印鑑の管理	○	通帳と印鑑の管理が適切であった。 ・通帳、印鑑をそれぞれ別の職員が管理していた。
管理物件に対する損害賠償、第三者への賠償	—	事例なし
指定管理開始前における準備	—	平成 21 年度から平成 25 年度、平成 26 年度から平成 30 年度と継続して指定管理者の指定を受けているので、対応なし。
管理終了後における引継ぎ	—	平成 21 年度から平成 25 年度、平成 26 年度から平成 30 年度と継続して指定管理者の指定を受けているので、引継ぎなし。
重要事項の変更の届出	—	届出の必要な事例なし
施設の使用許可及び条件	○	施設使用許可が施設設置条例に基づき適切に行われていた。（使用制限、使用条件の変更、入場拒否はなかった。）
施設、設備の保守管理	○	施設、設備の保守管理（点検や修繕等）が適切に行われていた。
備品の管理	○	備品の管理（点検や修繕等）が適切に行われていた。
清掃業務、警備業務、 その他必要な管理業務	○	清掃業務・警備業務・その他必要な管理業務が適切になされていた。

2 運営状況

指標	評価	評価に対する説明				
研修室利用状況	○	両施設ともに利用回数・利用者数が増加し、コミュニティスペースとしての役割を果たしていた。				
			新井田川水防センター		馬淵川水防センター	
			利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
		27年度	152回	2,727名	24回	357名
28年度	155回	3,046名	25回	518名		

3 収支状況

指標	評価	評価に対する説明				
指定管理業務の収支状況	○	収支計画を達成し、黒字であった。				
		(単位：円)				
			項目	収支計画	収支実績	前年度実績
		収入①	指定管理料	10,005,000	10,005,000	12,470,000
			社会保険料等徴収金	0	28,062	30,565
			雑入	3,312,000	3,312,000	2,003,000
			修繕料繰越金	54,000	54,000	54,000
			計	13,371,000	13,399,062	14,557,565
		支出②	人件費	6,398,000	6,380,916	6,217,192
			維持管理経費	4,170,000	3,227,610	1,848,308
			事務費・一般事務費	2,803,000	1,811,954	3,052,796
			計	13,371,000	11,420,480	11,118,296
	次年度修繕料繰越金③	0	30,240	54,000		
	収入－支出(①－②－③)	0	1,948,342	3,385,269		

4 運営に係る体制整備等の状況

指標	評価	評価に対する説明
利用者満足度の把握	○	利用者満足度を計る仕組みはないが、随時口頭にて聞き取り、運営に反映するようにしていた。
施設概要(利用方法)の周知	○	ホームページにより周知の上、利用者から問合せがあった場合は適宜伝えるようにしていた。
苦情・要望等の受付体制	○	苦情・要望を聞く仕組みは適切であった。
苦情・要望等への対応	—	苦情・要望がなかった。
個人情報の保護	○	個人情報保護の規程が整備され、遵守されていた。(運用実績なし)
情報公開	○	情報公開の規程が整備され、遵守されていた。(運用実績なし)
秘密保持義務	○	秘密保持義務が守られ、適切に対応されていた。
環境への配慮	○	環境に配慮した物品購入、省エネルギーへの取組み、リサイクル推進等の対応が適切に行われていた。

■他の事業評価実施状況

1 セルフモニタリング				
自主点検状況	実施状況			
	電気設備を2か月に1回、消防設備を年2回（総合点検・外観点検各1回）点検を実施した。その他施設の設備・備品を3か月に1回確認した。 利用者の要望等への対応は随時行い、3か月ごとに所管課へ報告を行った。			
2 定期モニタリング				
定期報告状況	実施状況			
	施設の利用状況に関する事項及び使用料収入の実績を毎月提出したほか、四半期業務報告書を提出しており、内容も適切であった。			
3 随時モニタリング				
実地調査状況	実施回数	実施日	実施者	実施内容
	6回	4月13日	担当	設備点検
		4月25日	担当	設備点検
		5月18日	担当	資機材確認
		6月24日	担当	設備点検
		8月24日	担当	設備点検
		1月17日	担当	資機材確認
	実施結果			
適切な管理が行われていた。				